

弓

三年

画数 3
筆順 ヲ弓
オン キユウ
クン ゆみ

成り立ち



むかし、一ばんつよいぶぎとされていた「弓」のかたちをあらわした字です。今の字は、まがりかたがこちようされていますが、とくちようがよくあらわされているとおもいます。

弓は、つかうときに「つる(弦)」をはり、これに矢をつがえて引きます。

弓には「弦」がつきものですから、弦のついた弓のよくなかたちのものを「弓」といいます。それで、バイオリンを引くのにつかうものを「弓」というわけです。

使い方

▽わたしのおかあさんは、むかし、弓道(きうだう)を習っていたそうです。弓をひくのは、たいへん力(ちから)がいったそうです。おかあさんが習ったのは和弓(わきゆう)といって、日本古来の弓です。わたしは、洋弓(やうきゆう)を習おうかなと思います。洋弓は和弓にくらべて、力がいらぬし、やさしそうだからです。

▽ぼくは、ロビンフッドのお話を(はなし)読みました。弓の名手(いみじ)で、弱い人の味方(たけな)のロビンフッドがかつやくする、とてもおもしろい物語(ものがたり)です。ロビンは強弓(たかきゆう)で、悪者(わるもの)をやっつけます。ぼくも弓の名手(いみじ)になりたいくなりました。

熟語例

▽弓道(きうだう)のひとつで、弓を射る技術(ぎじゆつ)です。弓術(きゆうじゆつ)ともいいます。

▽和弓(わきゆう) (西洋式(さいやうしき)の「洋弓」) に対して作られた言葉(ことば)です。日本式(にほんしき)の弓のことです。

▽強弓(たかきゆう) (弦(は)の張り(は)り方が、ふつうより強い弓のこと。引く時に強い力(ちから)が必要です。また、そういう弓を引ける人のことをもいいます。)

牛

二年

画数 4
筆順 ノニ牛
オン ギユウ
クン うし

成り立ち



つのを生(な)やした「うし」のあたまのかたちをあらわした字です。「うし」ということばをあらわした字です。

じゆくごのばあいは「ギユウ」と、音(ね)でよむのがふつうです(たとえば、「牛肉」は、「うしニク」といわないといえませんが、「ギユウニク」とよむのがふつうです)。

また、「牛歩(ぎゆうぽ)の「牛のような」歩(あゆ)み」というつかいかたのように「牛のような」といういみにつかわれることがあります。

使い方

▽わたしは、すぎやき(すぎやき)がすぎです。すぎやきは、おいしい牛肉(ぎゅうにく)が入(はい)っているから、すぎです。おとうさんもおかあさんも、おとうとも、牛肉(ぎゅうにく)がすぎなのですが、おとうさんとおかあさんは、わたしとおとうとに、よけい(よけい)たべさせよう(たべさせよう)とします。それで、わたしも、もつと牛肉(ぎゅうにく)がたべたいな、とおもっても、がまんすることにしています。

▽ぼくは、らくのう(らくのう)じようへいったことがあります。らくのう(らくのう)じようというの(う)は、牛(うし)をかつているところ(ところ)です。牛(うし)から乳(ち)をしぼって、牛乳(ぎゅうにゅう)をつくったり、牛乳(ぎゅうにゅう)からバターやチーズ(ちーず)をつくったりします。

熟語例

▽乳牛(にゅうぎゅう) (乳(ち)をとるため(ため)にかつている牛)

▽役牛(やくぎゅう) (のうぎようなどの力(ちから)しごとをさせるためにかつている牛)

▽牛飲馬食(ぎゅうにんばしょく) (牛(うし)のように飲み、馬(うま)のように食べる、つまり、ひどくたくさん食(た)べること。「あんなに牛飲馬食(ぎゅうにんばしょく)したら、おなかのぐあいがわるくなるだろうに」などといいます。)